

## ●東横線の切り替え工事

先週、3月15日から16日にかけての深夜にかけての4時間の間に、東京メトロ副都心線との直通運転のため、代官山駅を中心として現線と新線の切り替え工事が行われた。

弊社の近くでの大イベント、夜を徹しての野次馬見物のつもりで夜9時頃から現場に行ってみた。ところが、数千人に及ぶ作業員投入による短時間の大工事とか、沿線50mぐらいの幅でバリアが張られ近づけないこと判明。付近をウロウロしていると、配置に着く作業員と出くわす。明らかに電気系とわかるユニフォームの数十人、土木系の数百人が団体でゾロゾロ、これはこれで迫力がある。が、結局1時間ほどいて、あきらめて引き返した。

テレビで何度も放映されたのでご存じの方も多いと思うが、渋谷駅での最終電車後の大混乱は想定以上だったようだ。

この東横、メトロの直通により東武東上線、西武池袋・有楽町線の5線乗り入れとなり、東京西部の構造がかなり変化するとも考えられる。これまで渋谷、新宿、池袋とそれぞれがターミナル型副都心を形成してきたが、3副都心連携軸がメトロ副都心線で構成され、買い物や観光の流動にとどまらず、職場や学校の選択、ひいては居住地選びにも影響する可能性もあろう。長い目で見た構造変化に興味があるが、私もそろそろ古稀、どこまで見届けられるだろうか・・・。

堀田 紘之（技術顧問）

## ●男の居場所

団塊世代のリタイアによって、時間を持て余し気味のシニアたちが世に大量にあふれ出している。会社人間としての束縛から解放されたのはいいが、「居場所」が無いようで、先日はそれらしき衆が昼から酒を呑み、大通りで殴り合いの喧嘩を始める姿に出くわしてしまった。思うに御仁たちは地域に住むリタイア組の先達と新参者の組み合わせのように見えた。

シニアに限らず、女性たちはコミュニケーション能力が高く、初めての他人ともすぐに打ち溶け合えるからいつでも活動領域を広げることができ、上手な時間の過ごし方をしている。しかし、シニアの男性たちはこれが大の苦手である。結果、先のようなことになる。飲み屋、パチンコ、競馬などの濃い「昭和の」過ごし方もいいが、新しい過ごし方や過ごす場所を模索しても良いだろう。つまり、高齢社会におけるコミュニティ形成のための今風「寄り合い所」が必要で、これは空き家・空き室の活用などにもつながるのではないかな。

平成25年2月21日、NHKのインタビュー番組「50ボイス」で「男の居場所」をテーマにした放送をしていた。ヒントになるので以下に紹介しよう。

家の中を居場所にするには改造を伴うものが多く、戸建持家が理解ある大家の経営する賃貸住宅であることが必要で、集合住宅では難しそうである。一人だけいい気分になって「趣味をしています」のような感があって、家族の理解が相当に必要と思われる。何が何でもリビングのど真ん中を居場所にするといったおじさんは大丈夫なのだろうか。これらの活動空間を空き家や空き室に展開できれば、色々な面で平和になるのではないかな。

家の外を居場所にするおじさんたちは、趣味が多様だが何かとお金がかかるようだ。その中であって、居酒屋の厨房の中を居場所にするというのは面白い。アルバイト代がもらえるならば一石二鳥だ。フラダンスについてはフラには男のダンスがあって、その習得という事らしい。女性に囲まれて、ということは間違いないので元気を保てるに違いない。基会所はパソコンゲームなどと違い、直接対戦相手とコミュニケーションが取れるのがよいらしい。相手が有段者のわんぱく坊主だったりすることもあるわけだ。

さて、そのような時期がきたら、皆さんはどこでどのようにお過ごし？

## 男の居場所と使い方（NHKの番組より）

家の中	屋根裏	鉄道模型、テント生活など
	屋根の上	天体観測
	トイレ	書斎
	3畳間	自分だけの趣味の空間
	リビングルーム	ど真ん中を居場所にする
	部屋	レコード鑑賞、楽器練習（防音処置済）
家の外	居酒屋	呑む、つくる（厨房）
	教室	料理を習う、大工を習う、フラダンスを習う
	ガレージ	超軽量飛行機を作る、飛ばす（乗る） クラシックカーを修繕する、走る
	海	自前の船で沖に出る、釣り
	基会所	近所の集会所代わり

桑沢 秀美（都市計画プランナー）

●東日本大震災の復興の現場より ～金では解決できない問題～

復興予算と、この度のアベノミクスにより、東日本大震災の復興予算は20数兆円確保されている。この予算により、速やかに復興まちづくりが進められると考えられるなか、重大な問題が顕在化している。

昨年度から様々な復興工事の入札において不調が多くなっている。金額的な要因ではなく、人手、資材が確保できず受注できない状況であるとのことである。筆者が担当した石巻市の某漁村は、拠点漁港であるので比較的早い段階の発注であったが、複数回の入札不調が続いた。東日本大震災の復興では、金では解決できない状況がある。

では、どのような対策が必要であろうか。将来像を描くプランだけではなく、復興までの道筋を示すロードマップの作成が重要になっている。このロードマップを共有することにより、いつ頃、個人の住宅や生業が取り戻せるかを明確にでき、被災者の安心につながる。さらに、復旧までの期間（仮設期）が明確になれば、その間の生活のクオリティを高めるための対策も講じることができる。現状の仮設住宅の厳しい生活のまま、3度目の冬を迎えることがないように、復興の進め方を見直す時期になっているかもしれない。

内山 征（第二計画部）

…《ご挨拶》……………

このたび、株式会社アルメックとバリュープランニング・インターナショナル株式会社は、4月1日をもって合併し、新たに株式会社アルメックVPIとして発足いたしました。

つきましては、私ども微力ながら新陣容をもって総力を結集し、皆様のご期待に添いますよう全力を尽くしてまいりますので、よろしくご高承の上、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年4月

株式会社アルメックVPI

代表取締役 長山 勝英  
代表取締役 石本 潤

【事務局より】

1998年4月から発信をはじめた「ALMECホットニュース」ですが、今般のバリュープランニング・インターナショナル株式会社との合併を機に、今後の情報発信のあり方全般について再検討を行うことといたしました。

つきましては、当ニュースは本号をもって休止とさせていただきますので、何卒ご了解下さいますようお願い申し上げます。

長年にわたってのご愛読誠に有り難うございました。

---

発行責任者：代表取締役 石本 潤  
事務局：株式会社アルメックVPI 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almec.co.jp](mailto:hotnews@almec.co.jp)  
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>